

港北の消防

第55号

平成28年10月1日 編集
横浜市港北消防団 (港北消防署内)

初めてづくしの夏季訓練会 第二分団分団長 田川 博幸

平成二十八年度港北消防団夏季訓練会が、八月七日(日)午前十時から交通局新羽車両基地で実施されました。長年、団夏季訓練会だった樽町公園から今年は新羽車両基地に会場変更となりました。初めて使用する訓練会場、そして初めて分団長として参加する夏季訓練は緊張の連続でした。

前日の事前準備、これも初参加。武笠署長、飯田団長を中心とする庶務課、消防団係そして出張所長、分団長以上の消防団幹部が会場周辺の草刈り、積載車の駐車位置と各種目の立ち位置のマーキング、この会場からできたポンプ操法の三コースの設定等を行いました。初めて使用する会場事前準備としては混乱なくうまくいったのではないのでしょうか。午後から実施した予行も開会式から閉会式まで入念に繰り返し行われました。

快晴の七日本番、分団長として初参加、まずは訓練参加部隊の報告。ドキドキしながら自分では合格点。開会式は飯田団長からの消防団の日頃からの防火・防災に対する訓練を披露するようという訓示。横山区長、和泉区連町内会長のあいさつ。そして小型ポンプ操法、当たり前だが例年にも増して第二分団への応援が強い



自分がいま第八分団による訓練礼式、震災対応救出救護・消防団消防署連携訓練と続きましたが、こども第二分団から参加した団員の動きが気になりました。

健康に気を付けて 鳥山町自治会会長 阿藤 孝文

飯田団長をはじめ港北消防団の皆様、日々の活動ありがとうございます。そして、団員を支えるご家族の皆様にも感謝を申し上げます。

さて、私達の鳥山町は、港北区南部に位置し、人口約七千四百人、世帯数約三千四百で、第一分団第二班と第八分団に所属する合計二十数名の方々に活動してもらっています。

消防団の活動は仕事との二刀流なので、時間的にも体力的にも大変でしょう。鳥山の団員をはじめ皆様には、ぜひ万全の体調で活動をお願いしたいと思います。

そこで最近聞いた話を。中年太りや糖尿病を防いで健康な生活を送るための、簡単な効果の高い方法とこのことです。最初に食物繊維、次にタンパク質、最後に炭水化物を食べる。言い換えるとまず野菜を食べる、次に肉や魚、最後にご飯を食べるといこと。食べる順番を変える。たったこれだけ。食べたものを消化し吸収する胃と腸は、とてもストレスに弱い臓器だそう。食物繊維には、体が必要とする以上の糖や脂肪を吸着する働きがあるとのこと。ぜひお試しください。

そこでご家族の方にお願いです。どうか団員の方には毎日優しくしてあげて下さい。夫婦喧嘩などは絶対ダメです。せっかく美味しく栄養のあるものを食べるのですから、ストレス無く効果的に消化吸収できるようにぜひとも大人の対応をお願いします。



今後は、「消防団に入ると体が引き締まり、体の調子も良くなり、しかも長生きできる」といふことになっていくかもしれません。

篠原・港北小学校四年生の 社会科学習支援 第二分団副分団長 砂田 俊彦

小学校四年生の社会科学習を消防団が中心となり支援しました。

六月八日に加藤副団長宅駐車場を借用して篠原小四年生に、七月一日には港北小学校にて同小四年生に「消防団とはどんなものだろう?」「消防団と消防署の違いは何だろうか?」などを学んでもらいました。

メニューは、消防団の位置づけと活動内容の説明、小型ポンプ積載車の見学、ガンタイプノズルによる放水体験、消火栓の見学、消防団器具置場の見学(篠原小)、消火水櫃による消火器の使い方実習(篠原小)、防火水槽の見学(篠原小)、横浜市防災備蓄庫の見学(港北小)ウォーターカーテンホースの展示(港北小)などでした。

参加した児童は真剣にメモをとりながら、見学や資料の操作体験をしました。また、先生方を含め、消防団員のキビキビした態度と動作に感心していました。

この学習支援の発端は、小学四年生の社会科学習項目に消防活動が入っているためと思えますが、我々消防団にとっては、児童が消防団の存在意義や日頃の活動内容を理解することにより、より親しみを深めてくれるための良い機会であったと思います。きつこの日の体験を帰宅して保護者に話をしてくれたことでしょうか。このことが消防団員増員の一助になれば幸いです。



夏季訓練会に参加して 第三分団第四班 団員 池谷 宏貴

平成二十八年度港北消防団夏季訓練会が八月七日(日)、新羽車両基地で行われました。

我々第三分団第四班は、小型ポンプ操法大会に出場しました。五月から約三か月間、週二回の練習を積み重ねてきました。日中の仕事のあと、暑い中での練習はかなり厳しいものでした。当班は五年前の東日本大震災が発

生した年に、当番班として港北区及び横浜市の大会に出場し、私も補員として参加しました。震災の惨状を目の当たりにし、地域防災の重要性を痛感していたので、いざというときの訓練であるという意識を持ち練習していたのを思い出します。

今年は指揮者として参加するため、より一層の節度、気迫が必要であると感じておりました。そんな折、熊本地震が発生し、改めて当時の気持ちを思い出し、練習にも力が入りました。また、消防署の方、分団長を始めとした分団役員、各班長の皆様においてはお忙しい中、毎回練習を支援、ご指導をいただきました。そのおかげで選手全員大きな怪我をすることなく、万全の状態で大大会に臨むことができました。

結果は第四位と悔いが残る成績でしたが常々、「操法大会には魔物がいる」と言われており、まさか自分たちがその餌食になるとは思いもよらなかった。ポンプの不調で送水が遅れた時には、心が折れそうになりました。しかし、一番員の気迫のこもった声に「ハッ」とし、救われました。選手全員が互いを支え合い、励まし合つたことのできる操法大会に参加できたことは、とても貴重な経験でした。機会があれば、また参加したいと思います。



樽町中学校 地区懇談会 横浜市立樽町中学校 登内 将史

七月十一日(月)に樽町中学校地区懇談会が開催されました。樽町中学校は、樽町、師岡、大曾根、綱島の四つの地域から生徒が通っている大規模校です。例年の時期に地区懇談会が行われ、今年度は「防災について」前横浜市立東山田中学校長 平野先生より講演をしていただきました。

各小中学校のPTA、各地域の町内会長をはじめ、青少年指導委員、スポーツ推進委員、主任児童委員、保護司、少年補導員、各小中学校職員、樽町中職員などの方々が約二百名参加しました。

懇談会では、各小中学校より一学期の様子、夏休み中の祭礼や盆踊りの予定、地域の方々の紹介などをそれぞれの担当に話をしてもらいました。

講演会では、阪神・淡路大震災の映像など具体的な事例、地域拠点防災訓練の重要性、小学生中学生の防災訓練参加は、将来の防災に関する人材育成としても大切であることなど、非常に自分の身近なこととして考えさせられることばかりでした。

そして、何よりも「自助」が大切であると話されており、「共助」や「公助」は、その次にあると。説得力があるお話をしました。後半は、四五人に分かれてグループ討議をしました。実際に避難所運営に携わる場合、「食料物資班」「衛生班」「情報班」「庶務班」「学校再開準備班」のそれぞれの立場で、どのように運営をしていけばよいかを話し合いました。このように非常に濃い内容の講演会だったと感じますし、とても有意義であったと思います。



樽町のマンション防災訓練に 消防団が初めて参加 パークシティ綱島自治会会長 小泉 亨

パークシティ綱島は樽町にある二二二世帯のマンションです。これまで消防署に参加頂き防災訓練を行っていましたが、今年六月十二日(日)に、初めて港北消防団のみなさまに参加頂き防災訓練を実施しました。

五年前の東日本大震災で、エレベーターは停止し、家具が転倒した住居もあり、管理棟に情報を求めて来る方、避難する方などがいました。その際、これまでの防火のみの訓練では対応できないことがわかりました。そこで、二〇一三年に自治会と管理組合が協力

し、マンション防災委員会を立ち上げ、仙台市のマンションの貴重な事例を参考に、防災マニュアルを作成し、防災備品の整備を進めてきました。現在では、このマニュアルに沿って毎年の訓練を計画・実行しています。今年六月の訓練では以下を行いました。

・避難訓練(館内放送を合図に、各住戸から防災本部テント前に集合)

・安否確認(各住戸が玄関に「救助求む」「無事」「避難済」のステッカーを掲示)

・避難ハッチの使い方とベランダからの避難シミュレーション

・ベランダの壁のけやぶり訓練(※今年初めて実施)

・水消火器訓練(※消防団の指導のもと実施)

・消火栓の使用方法(高層階、駐車場棟 ※設備会社の協力のもと実施)

・防災備品の確認(非常用発電機、簡易トイレ、担架、食料等)

・炊き出し訓練(※今年初めて実施) 消防団のみなさまには、水消火器の指導に加え、すべての訓練にも参加頂きました。今回の訓練を機に、居住者にとって消防団が身近になり、また消防団にはマンションの防災状況を知らせて頂き、とても有意義なものになりました。ありがとうございました。また、今後もよろしくお願ひいたします。



横浜市民防災センター

第五分団 部長 田辺 恵通

梅雨が明けたか、明けないのか分からない様な七月二十四日(日)、「消防団員の基礎的諸能力の確認研修」に参加しました。

「消防団の基礎的諸能力の確認に関するマニュアル」を持参して、各分団の教育部長と各班長が集まり、各機材の取り扱いの確認や「瀬谷消防団の機材取り扱い訓練」の映像を鑑賞した後に、特別高度救助部隊(スーパージョー)の車両見学をさせて頂きました。NBC災害(放射能、生物、化学物質)にも対応できる頼もしい車両です。

防災センターでは、専属の解説員の案内により、一階の災害シアターでは一〇〇度の大型スクリーンに地震災害の映像が映し出され、音と映像のリアルさに驚き、映像の場で消防団の役割を考えると、日々の訓練の大切さを感じました。

その奥には、地震を再現する地震シミュレーターがあり、東日本大震災、阪神淡路大震災、関東大震災が再現されました。最後に横浜で震度七が発生した時の予想地震が再現され、その恐ろしさに驚きました。横浜の地震再現の揺れが一番大きく感じました。

一階では、火災シミュレーターで消火器体験や煙の中を避難する体験をすること出来ます。さらに、減災トレーニングルームでは、停電時や、火災発生時、大雨で浸水した時などの災害時の対応を習得できました。

横浜ハザードマップや防災ライブラリーもあり、正面入口では、小さなお子さんが消防服を着て、子供用消防車の前で記念撮影を行うなど、家族連れで十分楽しめる施設だと感じました。とても有意義な半日を過ごすさせていただきました。



「自助」「共助」をめざして

新吉田中央町内会長 中村 悦男

災害大国日本。地震の他枚挙に暇がありません。これらの災害に対し、日頃から備え、防災、減災に取り組みなければなりません。

その際重要な事は、「公助」に頼らず、「自助」「共助」の精神が必要とされています。当町内会ではこの「自助」の一環として、「スタンドバイ式初期消火器具」を本年購入しました。初期消火は自分たちで、ということになります。

ただ、購入しても置いておくだけでは扱いきれず、まさに「宝の持ち腐れ」になってしまいます。そこで六月二十六日(日)町内会会員の皆さんにこの消火器具の取り扱い訓練を致しました。

当日は組長をはじめ五十名程の会員が参加し、港北消防署高田出張所長他、第六分団第四班及び第八分団の消防団員の熱心な指導の下、参加者全員が真剣に取り組み、消火器具の組み立て、消火栓への接続、そして放水の手順を学びました。ただし、一度だけでは身に付かないと思われ、繰り返しの訓練が必要と考えております。

当日は、水消火器の取り扱い方や、AEDの使用方法についても指導いただきました。消防団の皆さん、有難うございました。

今後共、「自助」「共助」の心構えで取り組んでまいりますので、指導の程よろしくお願ひ致します。



港北消防団夏季訓練に参加して

第七分団第四班班長 金澤 等

平成二十八年八月七日、港北消防団夏季訓練会が行われました。第七分団の当番班として、ポンプ操法訓練会の出場を任命され、五月初旬より訓練を開始しました。

しかし、班員平均年齢の向上、仕事の都合が付きにくい団員、持病の腰痛がある団員等が多く、出場可能な選手の年齢もかなり高いものでした。

ここで、基本動作の習得等に重きを置き、自分達にできる限りのことを、無理しないように訓練を進め、訓練会当日も、訓練通りに自分たちの出来ることを無理せず、リラッククスして普段通りの行動を行う、これを目標とし訓練に励みました。

訓練に於いては、皆が仕事、体調等調整され、訓練出席率は平均八十%以上の高い出席率を得ました。

訓練会の結果成績そのものは残念な結果にありましたが訓練の成果は、十分発揮できたと感じております。

また、大勢の皆さまによる応援、支援のおかげで何事も無く、訓練会を終えることができました。この訓練会を通じ、地域の繋がりが、班員のチームワーク、それぞれの責任感の強さを、あらためて確認できたのが、新班長として一番の収穫だったと思います。

最後に指導、支援、応援していただいた多くの皆様へ感謝いたします。ありがとうございました。



夏季訓練会

新体制での第八分団

第八分団分団長 加藤 康子

新体制での港北消防団夏季訓練会が連日厳しい暑さが続く八月七日、交通局新車両基地をお借りして開催されました。第八分団は、各分団の夏季訓練会において男性団員と共に地域に密着した災害対応訓練に参加しております。

また、広報活動は元より区内で開催される救急救命講習の応急手当指導員としての知識取得をはじめとした各種訓練に積極的に参加し、第八分団の夏季訓練会も例年実施してまいりましたが、日々、仕事や家事等、忙しい中の訓練は大変な負担になっていました。

しかし、知識・技術の取得は勿論、一つの目的に向かい一致団結できるチームワークこそが組織活動を行うために必要なものと思っています。消防団活動に参加しやすい環境を自分たちで改善していかなければなりません。

飯田団長の「限られた人員と時間の中で活躍できる運営の場作り」との方針の下、今年度は港北消防団夏季訓練会の男性団員による小型ポンプ操法後、訓練礼式を第八分団訓練会として披露する場を頂きました。

十分間と限られた時間の中、多くの皆様方に、五十四名で編成された二つの小隊により各個訓練・整頓的確・小隊訓練をご披露することができました。礼式は消防活動を行うために、指揮・命令や統制の取れた部隊活動ができるようになるための基本訓練です。各班で練習をしてきた動きを一つにまとめる全体練習は一回のみ。そして、訓練会当日の現場での予行練習を行い、いざ本番へ。

本番を終えた団員の満足そうな顔を見て、とても嬉しく感激いたしました。

最後に、ご指導、協力頂き下さいました味上副署長をはじめ各出張所長に深く感謝申し上げます。



予防課からのお知らせ

今年四月、「横浜市民防災センター」(神奈川県川区渡渡)は、防災に関する六つのコーナーの体験を通して、より分かりやすく・楽しく、防災・減災について学ぶことができる施設にリニューアルしました。

体験ツアーでは、過去に横浜市を襲った大地震や今後横浜を襲うことが予想される大地震について、現在の横浜市の風景を使用しストーリー仕立ての臨場感あふれる映像で、被害をわかりやすく、知ることが出来る災害シアター。

東日本大震災や阪神淡路大震災などの過去の地震、戸建住宅や超高層ビルの揺れなど、様々なシチュエーションが体験できる地震シミュレーター。

減災トレーニングルーム、消火器を使った消火体験、煙からの避難行動など、災害時に自分の身を守る方法やお互いに助け合う行動が習得できます。

港北消防署では、横浜市民防災センターを港北区民の皆様に広く利用していただくため、オリジナルカフェホルがもらえる限定イベントを実施しています。

参加方法は、横浜市民防災センターの受付

にて、港北区在住・在学・在勤者である事を伝え、スタンプカードを受け取ります。スタンプを三個集め港北消防署に持参すれば、オリジナルカフェホルと交換できます。ただし、スタンプは、来館一回につき人数分のスタンプを押印します。(二名で来館の場合、二個押印。カード一枚に二個でも二枚に一個ずつでも有効です。)

期間は、来年三月三十一日までですが、カフェホルが無くなり次第イベント終了となりますので、お早目の来館、そして交換をお願いします。



火災発生状況	年別	平成28年	平成27年	増△減
		件数	41	41
火災発生状況	建物	18	23	△5
	林	0	0	0
	車	3	1	2
	船	0	0	0
	航空機	0	0	0
	その他	20	17	3
	焼損床面積	234	1,416	△1,182
	死者	1	2	△1
	焼死	1	2	△1
	放火自殺	0	0	0
放火自殺者	10	7	3	

主な出火原因	年別	平成28年	平成27年	増△減
		1 放火	17	8
2 こんろ	7	8	△1	
3 溶接機・切断機	2	1	1	
4 火あそび	1	1	0	
5 配線器具	1	0	1	

編集後記

「港北の消防」の編集に初めて携わりました。原稿をお寄せ下さった方々へ改めて御礼申し上げます。文章を通じて、消防団活動や、消防署・地域との連携の大切さを熱く感じました。その文章の読み合わせをして、「てにをは」や言葉の公式性などを考え、忍びなく思いながら校正させて頂いたこと、より読みやすくなるよう心掛けました。写真をはじめ、端から端までじっくりお読みいただけましたら幸いです。

本	部	部	部	部	部	部
本	部	部	部	部	部	部
加藤 修	長瀬 進	村田 庸明	砂田 俊彦	吉田 亮一	黒川 亮一	池田 剛
中山 忠夫	山本 剛	池田 亮一	黒川 亮一	吉田 亮一	砂田 俊彦	村田 庸明
悦子	悦子	悦子	悦子	悦子	悦子	悦子